

- 問1 7世紀初めの日本において、聖徳太子らが「冠位十二階」を定めた背景には、天皇中心の政治を強化しようとする意図がありました。この制度の特徴について述べた文として、正しいものを一つ選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
- 豪族の身分を固定化し、その子孫が代々高い地位を継承することを保障した。
 - 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。
 - 遣唐使として派遣された留学生の意見を取り入れ、全ての土地と人民を天皇のものとした。
 - 役人が職務を行ううえでの心構えを説いたもので、儒教や仏教の考え方が取り入れられた。
- 問2 大化の改新から始まる律令国家の形成過程において、天智天皇の死後の後継者争いに勝利した天武天皇が、その後の政治で目指したこととして最も適切な説明はどれか。 (2018年 岡山県公立入試 類似)
- 武士の協力を得て、朝廷の警備を強化し、新しい幕府を開くこと。
 - 仏教の力を借りて、地方の豪族に土地の私有を認めること。
 - 天皇の権威を強め、法に基づき全国を直接統治する中央集権体制を確立すること。
 - 遣唐使の派遣を停止し、日本独自の国風文化を広めること。
- 問3 天智天皇の死後、その後継者をめぐって起きた672年の壬申の乱に勝利し、天皇を中心とした強力な支配体制の確立を目指した人物は誰か。 (2018年 岡山県公立入試 類似)
- 聖徳太子
 - 中大兄皇子
 - 天武天皇
 - 桓武天皇
- 問4 7世紀後半、朝鮮半島において唐と結ぶことで百済や高句麗を滅ぼし、半島を初めて統一した国を選びなさい。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
- 百済
 - 新羅
 - 高句麗
 - 隋
- 問5 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）らが定めた制度のうち、家柄にとらわれず、個人の才能や功績がある人物を役人として登用することを目的とした制度を何といいますか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
- 冠位十二階
 - 氏姓制度
 - 憲法十七条
 - 班田収授法
- 問6 飛鳥時代、法隆寺の建立など仏教を中心とした国づくりを進めた聖徳太子は、中国大陸を統一した王朝へ使節を派遣しました。この使節の名称と、その代表として派遣された人物の正しい組み合わせを選んでください。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
- 遣唐使 — 小野妹子
 - 遣唐使 — 鑑真
 - 遣隋使 — 鑑真
 - 遣隋使 — 小野妹子
- 問7 7世紀後半、朝鮮半島で滅亡した百済を復興させるために日本が送った軍が、唐と新羅の連合軍に大敗した戦いを何というか、名称を答えなさい。 (2021年 三重県公立入試 類似)
- 桶狭間の戦い
 - 壇ノ浦の戦い
 - 白村江の戦い
 - 長篠の戦い
- 問8 当時の有力な豪族の家系図において、蘇我稲目の子であり、推古天皇や聖徳太子とも深い血縁関係を持つ人物が行った政治的行動として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
- 武士団を組織して平氏を打倒し、征夷大將軍となって幕府を開いた。
 - 検地や刀狩を行い、兵農分離を進めることで社会の安定を目指した。
 - 遣隋使の派遣を停止し、日本独自の国風文化を育てることに専念した。
 - 仏教の採用に反対する勢力を退け、大陸の新しい文化や制度を取り入れて国家の近代化を図った。
- 問9 聖徳太子が行った政治改革のうち、「詔（天皇の命令）を承けては必ず謹め」といった記述が含まれ、仏教を敬うことや官吏（役人）が守るべき道徳を示したものはどれですか。 (2018年 大分県公立入試 類似)
- 十七条の憲法
 - 五箇条の御誓文
 - 冠位十二階
 - 大宝律令
- 問10 7世紀後半、日本（倭国）は朝鮮半島の西南部に位置する地域へ大規模な軍隊を派遣し、唐・新羅の連合軍と衝突しました。この戦いが起こった直接的な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
- 新羅と軍事同盟を結び、半島北部の高句麗を制圧するため
 - 友好関係にあり、当時滅亡していた百済の復興を支援するため
 - 九州北部を襲撃した刀伊と呼ばれる集団の正体を突き止めるため
 - 博多に侵攻してきた元の軍隊を、朝鮮半島の拠点で迎え撃つため
- 問11 朝鮮半島西岸の百済旧領に近い位置で行われた白村江の戦いにおいて、唐・新羅の連合軍に敗れた日本は、大陸からの侵攻を恐れて国内の防衛体制を急いで整えました。このとき、九州の防衛拠点である大宰府を保護するために築かれた、大規模な土塁の名称を答えなさい。 (2025年 茨城県公立入試 類似)
- 多賀城
 - 大野城
 - 山城
 - 水城
- 問12 聖徳太子が活躍した7世紀初め頃の政治の様子について、制度の内容とその背景を記述した文として正しいものはどれですか。 (2019年 長崎県公立入試 類似)
- 地方の有力者が「国司」として任命され、中央から派遣された役人と共に土地を治めた。
 - すべての土地を国有とする「公地公民」の原則が確立され、農民に口分田が与えられた。
 - 冠の色によって12段階の位を示し、個人の功績に応じて地位を与える制度が整えられた。
 - 律令に基づいて全国を国・郡・里に分け、中央集権的な地方支配体制が完成した。
- 問13 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は、仏教や儒教の教えを取り入れた「十七条の憲法」を制定しました。この法が制定された主な目的として最も適切なものはどれですか。 (2019年 新潟県公立入試 類似)
- 天皇の命令に従うことなど、政治に関わる役人の自覚を促し、国家の体制を整えるため
 - 遣隋使の派遣を中止し、日本独自の国風文化を発展させるための指針とするため
 - 大宝律令の内容を補い、農民に対して厳しい罰則を設けて年貢を確実に徴収するため
 - 最澄や空海が中国から持ち帰った新しい仏教を広め、地方の豪族を統制するため
- 問14 大化の改新から平安京遷都までの約150年間における社会の動きについて述べた文として、正しいものはどれか。 (2019年 香川県公立入試 類似)
- 聖徳太子が摂政となり、十七条の憲法を定めて役人の心得を示した。
 - 小野妹子が遣隋使として中国に渡り、大陸の進んだ制度を積極的に取り入れた。
 - 律令の制定や東大寺の大仏建立など、天皇を中心とした国づくりが進められた。
 - 蘇我氏が大きな権力を持ち、政治の主導権を握り続けた。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。	冠位十二階は、功績があった本人に位（冠）を与える制度であり、その地位は子孫に引き継がれる「世襲」ではありませんでした。家柄に関係なく、実力のある人物を役人として引き立てるこの仕組みは、当時の中国（隋）の制度も参考にされています。また、役人の心構えを説いたものは、同時期に制定された「十七条の憲法」です。
問2	答え 3 天皇の権威を強め、法に基づき全国を直接統治する中央集権体制を確立すること。	壬申の乱で勝利した天武天皇は、天皇の力を背景に、法に基づき天皇が全国を直接支配する「中央集権国家」の完成を目指しました。この流れは、その後の持統天皇や、大宝律令の完成へとつながる重要な過程となりました。
問3	答え 3 天武天皇	大海人皇子（のちの天武天皇）は、天智天皇の子である大友皇子との争いに勝利して即位しました。この乱を通じて豪族の勢力を抑えることに成功し、法（律令）に基づいた国家運営を推進する強い権力を手にしました。
問4	答え 2 新羅	4世紀頃から高句麗、百済、新羅の3国が勢力を争う三国時代が続いていましたが、7世紀に唐と結んだ新羅が660年に百済、668年に高句麗を相次いで滅ぼしました。その後、新羅は共同で戦った唐の勢力も退け、676年に朝鮮半島の統一を成し遂げました。
問5	答え 1 冠位十二階	聖徳太子は、推古天皇のもとで天皇中心の国づくりを進めるため、603年にこの制度を整えました。それまでの「氏姓制度」が家系や血縁を重視していたのに対し、個人の實力を評価して官位（位）とそれに応じた色の冠を授けることで、有能な人材を確保しようとしてしました。
問6	答え 4 遣隋使 ― 小野妹子	聖徳太子が推古天皇の摂政として政治を行っていた7世紀初め、中国を統一していた王朝は隋です。太子は、大陸の高度な文化や制度を取り入れるため、607年に小野妹子を使節として派遣しました。鑑真は奈良時代に唐から日本へ渡った高僧であり、時代や背景が異なります。
問7	答え 3 白村江の戦い	663年に朝鮮半島の白村江で行われたこの戦いは、中大兄皇子（のちの天智天皇）の時代に起こりました。日本は伝統的に友好関係にあった百済を支援しましたが、唐と新羅の強力な連合軍の前に大敗を喫しました。これにより、日本は朝鮮半島における影響力を失うこととなりました。
問8	答え 4 仏教の採用に反対する勢力を退け、大陸の新しい文化や制度を取り入れて国家の近代化を図った。	蘇我馬子は蘇我稲目の息子であり、自らの娘を天皇に嫁がせるなどして天皇家の外戚として強い権力を握りました。彼は仏教を積極的に受け入れることで、大陸の高度な技術を持つ渡来人と結びつき、古い慣習に縛られない新しい国家体制を目指しました。この過程で仏教反対派の物部氏と激しく対立しました。
問9	答え 1 十七条の憲法	604年に制定された十七条の憲法は、日本最初の成文法としての性格を持ちますが、現代の法律とは異なり、役人が政治を行う上での「心得」を説いたものです。同じく聖徳太子の政策である冠位十二階は「個人の才能を評価する制度」であり、この憲法とあわせて天皇中心の政治を支える基盤となりました。
問10	答え 2 友好関係にあり、当時滅亡していた百済の復興を支援するため	飛鳥時代の663年、日本は友好国であった百済の復興を助けるために大軍を派遣しましたが、唐・新羅の連合軍に白村江の戦いで大敗しました。この敗北を受け、日本は唐・新羅による本土侵入を恐れ、大宰府の北側に水城を築いたり、各地に朝鮮式山城を作ったりして防衛体制を急いで整えることとなりました。選択肢にある「元」や「刀伊」は、それぞれ鎌倉時代や平安時代の中期の出来事であり、時代背景が異なります。
問11	答え 4 水城	白村江の戦いでの敗北後、天智天皇は唐・新羅の日本侵入を想定し、対馬・壱岐・北九州に「防人（さきもり）」を配置するとともに、のろし台を設置しました。特に政治・外交の拠点であった大宰府を守るため、その前方に「水城」と呼ばれる巨大な堤（土塁）を築き、外堀に水を貯めて敵の侵入を防ぐ工夫を凝らしました。
問12	答え 3 冠の色によって12段階の位を示し、個人の功績に応じて地位を与える制度が整えられた。	冠位十二階は、位によって冠の色を分けることで、宮中における序列を視覚的に明確にした制度です。これは個人の能力を評価する仕組みであり、世襲によって地位が決まっていた当時の豪族主導の政治を改めようとしたものです。他の選択肢にある国司の設置や公地公民などは、大化の改新以降の「律令国家」へと向かう過程で整備された仕組みです。
問13	答え 1 天皇の命令に従うことなど、政治に関わる役人の自覚を促し、国家の体制を整えるため	聖徳太子は、豪族たちが権力を争っていた状況を改善し、天皇を中心とした中央集権国家を築くことを目指しました。そのため、役人（官吏）に対して「和を以て貴しとなす」という儒教的な協調精神や、仏教を深く敬うこと、天皇の詔（みことり）には必ず従うことといった、政治に携わる者としての道徳的な規範を示したのがこの法です。
問14	答え 3 律令の制定や東大寺の大仏建立など、天皇を中心とした国づくりが進められた。	大化の改新で蘇我氏が倒された後、日本は本格的な法治国家を目指して701年に大宝律令を制定しました。また、752年には聖武天皇の発願により東大寺の大仏が完成するなど、仏教の力を借りて国を安定させようとする天皇中心の政治が展開されました。聖徳太子の活動や遣隋使、蘇我氏の全盛期はいずれも大化の改新以前のことです。